

(参考様式5)

事業活用活性化計画目標評価報告書

計画主体名	計画主体コード	計画番号	計画期間	実施期間
北海道奥尻町	01367	1	H19～H23	H19～H21
活性化計画の区域				
北海道奥尻町 奥尻島地区				

1 事業活用活性化計画目標の達成状況

事業活用活性化計画目標	目標値 A	実績値 B	達成率 (%) B/A	備考
地域産物の販売額の増加	4.92%	1.05%	21.34%	

(コメント)

奥尻町の主産業である水産物の流通販売のほか、ブドウを原料とした新たな農産物加工品を開発して島の特産品の一つに加え地域活性化を目指し、平成21年度からワイン販売を開始したが、数年前から天候不順が続きブドウ開花期の濃霧が原因で収穫量が激減した。
また水はけの悪いほ場も、収量減少の要因となっている。

2 目標の達成のために実施した各事業の内容と効果

事業メニュー名	事業内容及び事業量		事業実施主体
農林水産物処理加工施設	①実施設計 ②ワイナリー工場 (鉄筋造2階建て1,450㎡)、 駐車場整備		農業生産法人 株式会社 奥尻ワイナリー
管理主体	事業着工年度	事業竣工年度	供用開始日
農業生産法人 株式会社 奥尻ワイナリー	平成19年度	平成20年度	平成21年度
事業の効果			
本事業を実施することにより、奥尻ワインと併せて奥尻産牛を提供して島内での地産地消することができ、また奥尻産米を加えて地元食材のサービスを提供して、観光客を増やす一因となっている。			

事業メニュー名	事業内容及び事業量		事業実施主体
農山漁村活性化施設整備 備付事業	PR用パンフレット及びポスター		農業生産法人 株式会社 奥尻ワイナリー
管理主体	事業着工年度	事業竣工年度	供用開始日
農業生産法人 株式会社 奥尻ワイナリー	平成21年度	平成21年度	平成21年度
事業の効果			
<p>本事業を実施することにより、地元や島外の人たちに奥尻ワインを広く周知することが出来た。</p>			

3 総合評価

<p>(コメント)</p> <p>奥尻町</p> <p>事業を導入することにより、農林水産物処理加工施設（ワイン工場）を新たに整備することができ、新たな観光資源となって観光客の増や雇用の場の確保や地域の活性化が促進され、島の特産品としてのブランド化が図られた。</p>

4 第三者の意見

<p>第三者-A</p> <p>奥尻ワインについては、田辺由美氏（ワインアンドワインカルチャー(株)代表）から高い評価を受け、奥尻町内外でワインの提供を実施しており、知名度も向上してきている。</p> <p>また、工場が建設されたことに伴い、新たな雇用が創出され、観光資源の一助となるなど、地域の活性化が図られている。</p>
<p>第三者-B</p> <p>本事業を行うことにより、「奥尻ワイン」としてのブランド化が図られた点については、一定程度評価できる。</p> <p>数年前からのブドウの開花期の日照不足が原因となり、ブドウ収穫量が計画量に至らず、ワインの生産量及び販売額の目標を達成することはできなかった。</p> <p>気象条件の悪化のためやむを得ないと考えるが、今後も目標達成に向けた生産量の増加に努められたい。</p>
<p>第三者-C</p> <p>地域産物の販売額増加については、微増となった。新たに取り組んだブドウが高台では、潮風害、山間ではヤマセのため、樹が傷み、補植を行っているが成樹になっていない。</p> <p>平成23年は、ワイン用ブドウ（ヨーロッパ種）に国内初のブドウつる割れ細菌病が発生し、93%の園地で確認された。生産量が伸びず目標を達成することができなかった。</p> <p>平成24年は防除効果の高い殺菌剤の使用により病害の発生を食い止めている。</p> <p>今後の計画的な園地管理により、ブドウ生産は安定化し、販売量の増加が期待できる。</p>

【 記入要領 】

- (1) 計画主体コード、計画番号は年度別事業実施計画に記入した番号とすること。
- (2) 「1 事業活用活性化計画目標の達成状況」のコメントには、目標が未達成となった場合は、その理由を記入すること。また、達成状況が低調である場合は実施要綱8の2の(1)及び(2)に基づき改善計画を作成し、農林水産大臣に提出すること。
- (3) 「2 目標の達成のために実施した各事業の内容と効果」は事業メニュー毎に作成すること。また、「事業の効果」には事業の実施により発現した効果（農山漁村の活性化に関連する効果）を幅広に記入すること。